JPX
東証上場
証券コード：3435

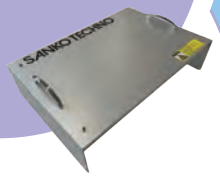
第56期 第2四半期のご報告
2019年4月1日～2019年9月30日

株主通信

サンコーテクノの製品は、
皆様の身近な「安全」を支えています。

NEW

吹けば顔が写る
業務用呼気
アルコール検知器
「ALC Face（アルコ フェイス） ST-2000」



鋼製・コンクリート製構造物
の補修をサポート
紫外線LED照射器
「e-キュア UVライト」

サンコーテクノ株式会社

PHILOSOPHY

経営理念

奉仕は、真価の追求なり
啓発は、未来の追求なり
協調は、繁栄の追求なり

社是

創り、活かし、満たす
ー 人のお役に立つために、創造提案型企業をめざす ー

社訓

感性と実践力を磨き、
健康で豊かな環境づくりに貢献します

心の経営とは

私たちの会社が、最も大切にしていること。
それは「心の経営」です。
心の経営とは、「理想は高く 頭は低く 実践は足下から」を
基本姿勢とし、その実践を「挨拶と清掃」に求めています。
こうした日々の実践を通して
活気あふれる職場づくりを目指しております。

「一般社団法人倫理研究所」の
ライセンス認定企業
プログラム『倫理17000』の
第1号に認定

サンコーテクノグループ S.T.G VISION 2020

私たちは **独自の締結（ファスニング）システムで、**
安全・安心を提供する モノづくり集団を追究します

5つの視点

お客様へ…
お客様の期待を超える価値創造を実践し、
“SANKO ブランド=人”を実現します

お取引先様へ…
共育・共創・共生を
キーワードに共鳴し合える
関係を構築します

社会へ…
事業を通じて、安心して
暮らせる豊かな
環境づくりに貢献します

株主様へ…
持続的な利益創出と
株主還元により企業価値の
向上を図ります

社員へ…
自身の成長とチームの
達成感（喜び）を共有できる
職場環境を構築します

S.T.G スローガン

グループ一丸となって、
人財・品質・実践力を磨き モノづくり企業を究めます

SDGsへの取組み

当社グループは、SDGs（持続可能な開発目標）についても、
さまざまなステークホルダーと共に、達成に貢献していきます。

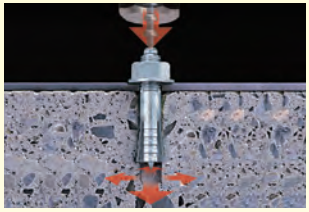
SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

FLAGSHIP

「あと施工アンカー」とは?

木材等に物を固定したり、留め付ける際に釘を使用するように、コンクリート等に物を固定する際には「あと施工アンカー」が使用されています。
当社は「あと施工アンカー」市場においてトップシェアを維持しております。

釘


あと施工アンカー

「あと施工アンカー」は、街の安全と安心をサポートしております

自動販売機の固定に

フェンスの取付けに

ジェットファンの取付けに

室外機の取付けに

ご挨拶

株主の皆様には、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。また、各地に甚大な被害をもたらした豪雨や台風により被災されました方々に、謹んでお見舞い申し上げますとともに、被災地の一日も早い復旧を心よりお祈り申し上げます。
ここに、当社の2020年3月期第2四半期(2019年4月1日～2019年9月30日)の業績と今後の取組みについてご説明する株主通信をお届けいたします。本誌を通じて、当社へのご理解を深めていただければ幸いに存じます。

代表取締役社長
洞下英人

「コト売り」へのシフトによって業容を拡大し、長期安定成長への道筋を盤石なものにしてまいります。

2020年3月期第2四半期連結業績と通期業績・配当見通しにつきまして

当社グループの2020年3月期第2四半期は、九州北部豪雨や大型台風など大規模自然災害が相次いだものの、堅調なインフラ・土木関連需要を背景に都市圏・地方圏の双方であと施工アンカーや電動油圧工具の販売が伸びたほか、前期に実施したM&Aの効果等によって電子基板関連の売上も拡大したことなどから、売上高は8,734百万円（前年同四半期比15.0%増）となりました。営業利益につきましては、原材料費の高止まりや輸送費上昇の影響はあったものの、同14.8%増の566百万円となりました。

2020年3月期通期の業績見通しは、期初発表通り、売上高は前連結会計年度比7.5%増の18,300百万円、営業利益は同5.5%増の1,390百万円を予想しております。

また、2020年3月期の1株当たり期末配当金は、前期比2円増配の、26円とさせていただく見通しです。

当社グループは引き続き、将来の事業展開・経営体質の強化のために必要な内部留保を確保しつつ、安定配当を継続していくことを基本方針としてまいります。

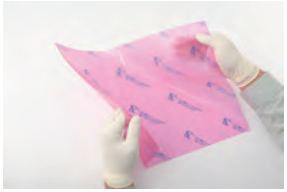
事業環境認識

民間設備投資および公共投資は今後も堅調な推移が見込まれるほか、高度経済成長期に整備された各種インフラや建造物についても、高速道路や鉄道・トンネルに加え、都市用水や農業用水関連など、幅広い分野で維持・保全・補修需要が拡大しています。また、近年相次いでいる大規模自然災害を背景に、より高い強度性能や安全性を確保できる製品へのニーズが高まっているほか、人手不足が続く建設・土木現場においては、作業の効率化に寄与する新たな製品や工法が強く求められています。

当社グループはこうした事業機会を着実に取り込むことで、2020年3月期における3期連続の増収増益を確実なものとしていくほか、中長期的には、定量目標として掲げてきた売上高成長率5.0%以上（年平均）、営業利益率8%の達成に向けて、引き続き邁進してまいります。

ファスニングだけでなく機能材においても、インフラ補修ニーズにお応えしています

紫外線に当てることで簡単に硬化し、
強靭なFRP（繊維強化プラスチック）を形成



紫外線硬化型FRPシート
e-シート

紫外線LED照射器
e-キュア UVライト

[構造物補修のトータルシステム]
防錆・防食・防水・補修・絶縁
などさまざまな用途で使用

【例】
老朽化した横断歩道橋の補修等に

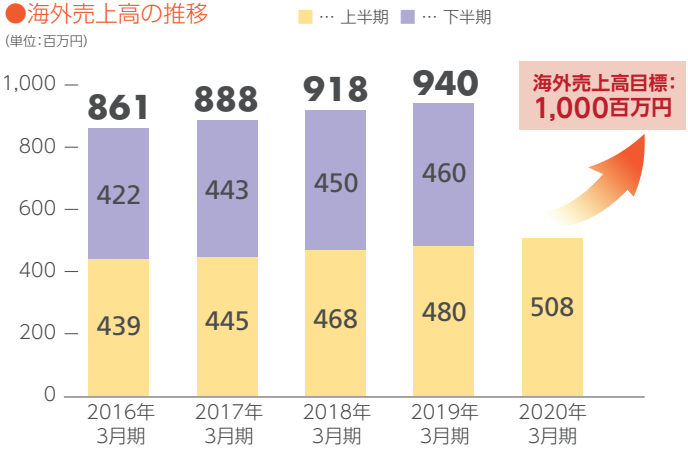
具体的施策

収益の柱であるファスニング事業においては、これまで注力してきた首都圏の大規模ユーザー向け営業強化策である「CPM（クロスプロジェクトマネジメント）」、地方圏での「現場力アップ」の取組み、昨年4月に創設した技術研究所による「開発のスピードアップ」などが奏功し、現場起点の事業活動がグループ全体に浸透しつつあります。今後はこの成果を土台に、これまでの「モノ売り」を中心とするビジネスモデルから、「製品」「技術」「サービス」をバランス良く提供しながらお客様の課題を解決する「コト売り」へのシフトを推し進めてまいります。具体的には、土木分野に注力するなかで培ってきた顧客との信頼関係や現場での情報収集力を活かし、現場の困りごとを解決する新たなサービス、メンテナンス、工法の開発を強化してまいります。更に、こうした取組みを地域密着できめ細かく展開す

ることで、高い顧客満足を実現してまいります。
当社グループの第2の収益の柱とするべく業容拡大策を進めている機能材事業については、本年2月に子会社化した浦和電研(株)との共同事業が電子基板分野において始まっているほか、同年4月に子会社化した成光産業(株)とともに、プラスチック関連事業でのシナジー創出へ向けた準備を進めています。また、海外製のプラスチック成形機および包装機の販売における同社の強みである機械修理・メンテナンス能力を「コト売り」の核の1つとして発展させるべく、営業ネットワークなどの経営資源を融合させながら、地域密着拠点を拡充してまいります。アルコール検知器についても、累計販売台数の増加に伴い定期メンテナンス等によるサービス収益も拡大していることから、新たなニーズに応える新機種の開発とメンテナンスの両輪により、収益ドライバとしての事業拡大に注力してまいります。

売上高10億円を長年の目標としてきた海外事業については、当第2四半期の売上高が5億円超となったことから、引き続き、ベトナム・タイ・台湾と国内拠点との連携や取扱商品の拡充を進め、通期売上高10億円の確実な達成を目指してまいります。

●海外売上高の推移



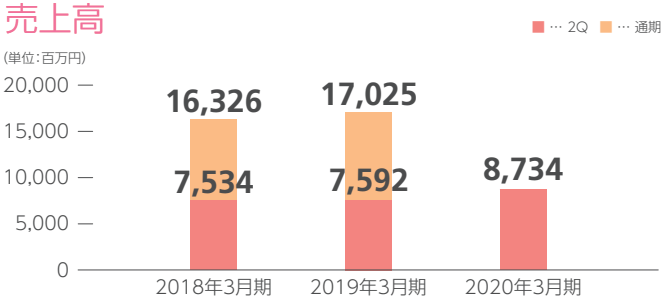
長期安定成長と社会的価値創造基盤の拡充へ向けて

当社グループは今後も、インフラ・土木など社会性の強い分野において「安全・安心・環境」というキーワードに根ざした新たな価値を創造し続けることで、「コト売り」へのシフトを強化してまいります。また、あと施工アンカーのトップメーカーとしての安定供給能力を更に強化することで、社会的価値創造基盤も拡充していまいります。
こうした活動の根幹を担う人財の育成にあたっては、これまでのトップダウン方式に加え、ミドルアップダウン型の活動を拡充してまいります。具体的には、各部署や拠点の責任者が、自らの組織の方向性や目標を「ミッション」「ビジョン」として策定するとともに、達成へ向けたPDCAサイクルを回すことで、経営者意識の高い人財を育ててまいります。これら一連の取組みにより、長期安定成長と持続的な価値創造への道筋を盤石なものとすることを、次期中期経営計画の核に据える見込みです。
株主の皆様におかれましては、今後とも変わらぬご支援・ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

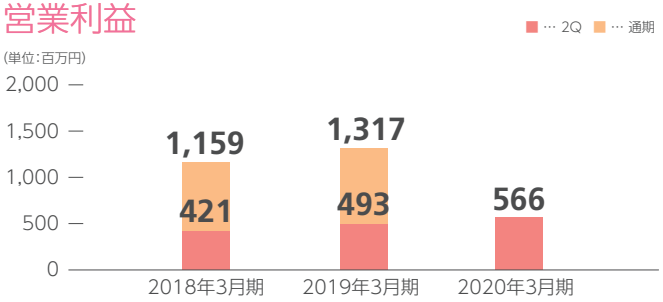
HIGHLIGHTS 連結財務ハイライト

当第2四半期は、都市再開発やインフラ整備、東京オリンピック・パラリンピック関連事業を中心に民間設備投資・公共投資ともに底堅く推移したものの、資材価格や労務費の上昇等から厳しい状況が続きました。一方、成長戦略のキーワードである「安定供給」「安定品質」「市場創出」の促進に努めた結果、売上高は8,734百万円（前年同四半期比15.0%増）、営業利益566百万円（同14.8%増）、経常利益572百万円（同10.0%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は362百万円（同7.7%増）となりました。

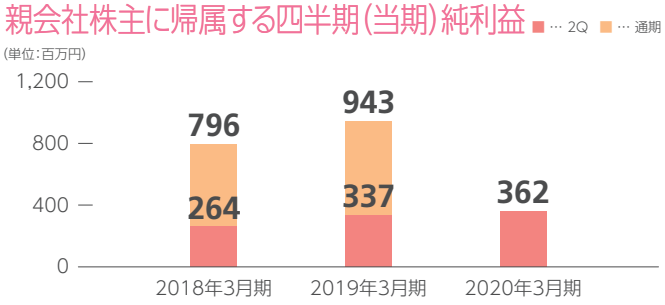
売上高



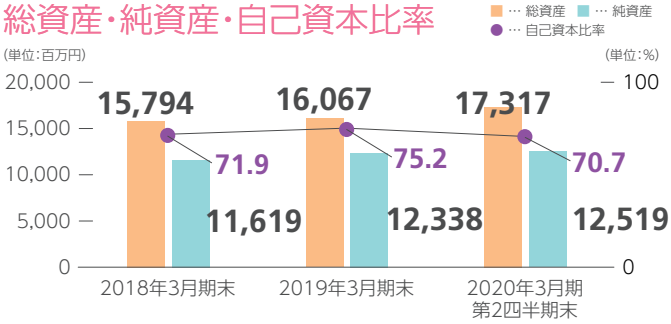
営業利益



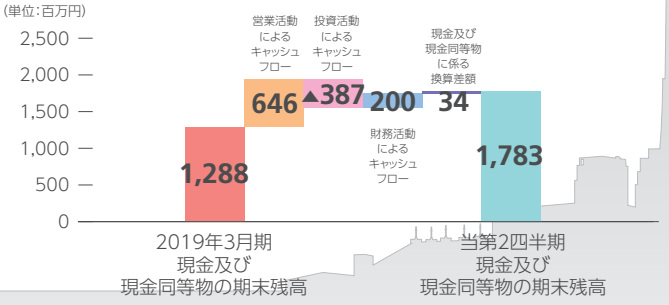
親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益



総資産・純資産・自己資本比率



連結キャッシュフロー計算書の概要

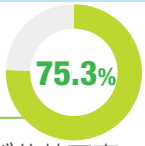


2020年3月期通期業績予想

売上高	18,300百万円
営業利益	1,390百万円
経常利益	1,410百万円
親会社株主に帰属する当期純利益	965百万円

OVERVIEW セグメント別概況

ファスニング事業



各種設備工事等の需要が民間工事および公共工事において前年を上回って推移したことから、主力製品であるあと施工アンカーの販売は好調に推移いたしました。さらに、完成工事高が増加したほかドリル・ファスナー製品の販売が増加したことから、総じて堅調に推移いたしました。この結果、当セグメントの売上高は6,580百万円(前年同四半期比8.4%増)、セグメント利益は783百万円(同4.1%増)となりました。

●アンカー関連

- 金属系アンカー
- 接着系アンカー
- その他のアンカー類

●ドリル・電動工具関連

- 大口径・小口径ドリル
- アンカー施工ツール
- 確認試験機

●ファスナー関連

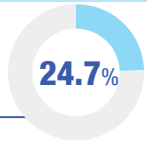
- サイディング用ファスナー
- ルーフィング用ファスナー

●工事関連

- 建設関連(耐震補強工事)
- 土木関連(一面耐震補強工事等)
- 太陽光関連

関連性の深いSDGs目標

機能材事業



電動油圧工具関連の販売が国内・海外ともに好調に推移し、電子基板関連およびアルコール検知器関連も好調に推移いたしました。一方、FRPシート関連は減少したものの、新たに包装・物流機器関連が加わったことにより、売上高が増加いたしました。この結果、当セグメントの売上高は2,153百万円(前年同四半期比41.4%増)、セグメント利益は192百万円(同34.3%増)となりました。

●FRPシート関連

●各種測定器、電子プリント基板関連

●電動油圧工具関連

- 鉄筋カッター
- 鉄筋ベンダー等

関連性の深いSDGs目標

TOPICS トピックス

展示会　2019年10月/東京ビッグサイト

高速道路を支える最先端技術「ハイウェイテクノフェア2019」に出展

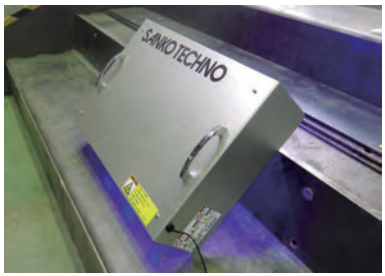
ゆるみ止めナット付き「メタルセーフアンカー」をはじめ、現場用引張試験機「テクノテスター」など、その他土木分野での補修・補強、設備関連商材を展示いたしました。

製品情報　2019年9月

紫外線LED照射器「e-キュア UVライト」を新発売

紫外線硬化型FRPシート「e-シート」専用の紫外線LED照射器「e-キュア UVライト」を㈱スイコーと共同開発し、鋼製・コンクリート製構造物の補修におけるトータルシステムの提供が可能となりました。

e-キュア UVライト



横断歩道橋への照射

製品情報　2019年9月

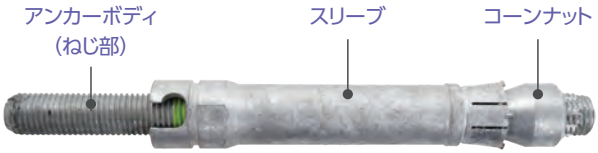
業務用呼気アルコール検知器「ALC（アルコ） Face（フェイス） ST-2000」を新発売

アルコール測定と本人確認が手軽に行える「ALC Face ST-2000」を発売いたしました。検知器本体にはカメラが内蔵されており、測定結果と測定者の顔写真が印刷されます。

製品情報　2019年9月

「自穿孔型拡底式あと施工アンカー」の技術を確立

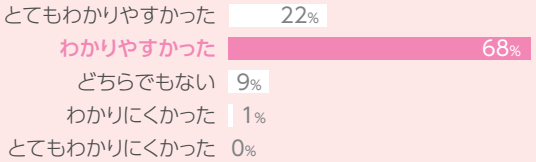
本技術は、アンカー自体が母材の孔底部で削孔しながら大きく拡張するため、施工が簡単で、従来のあと施工アンカーに比べてすべりや抜けが発生しにくい機構を有しています。

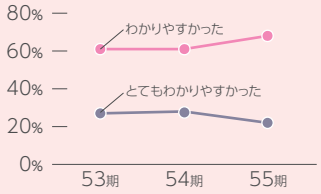


QUESTIONNAIRE RESULTS 株主様アンケート結果のご報告

アンケート回答結果 (%は単位未満四捨五入)

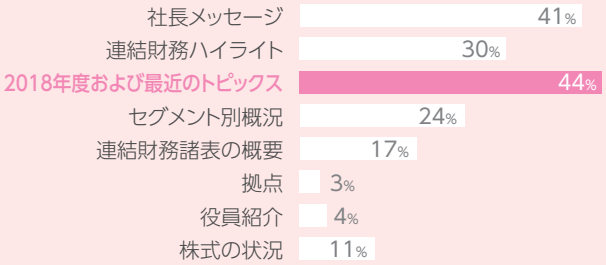
Q1 今回の株主通信のご感想はいかがですか?



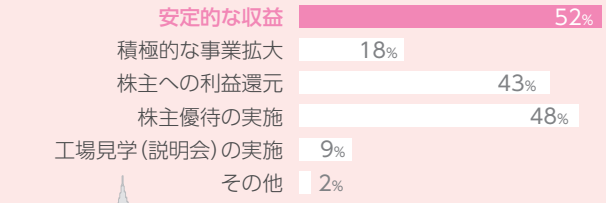


「わかりやすかった」が昨年に比べ7ポイント上昇し、「とてもわかりやすかった」との合計がちょうど9割となりました。更に多くの方の理解が深まるよう、鋭意制作してまいります。

Q2 特に興味を持ったページはどこですか? (複数回答可)

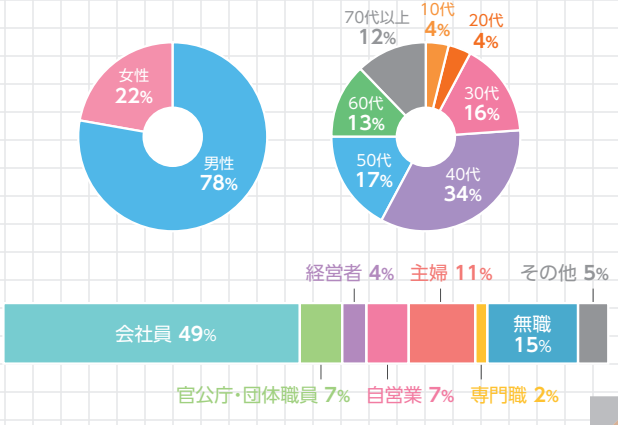


Q3 今後、当社に何を期待しますか? (複数回答可)

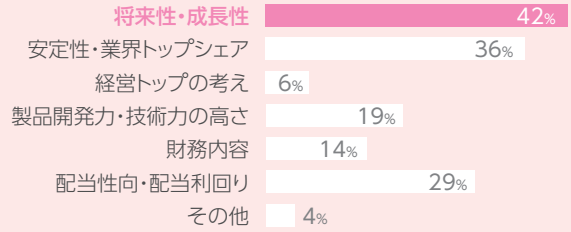


前号「株主通信」第55期事業のご報告において実施させていただきました「株主様アンケート」では、皆様からのご回答ならびに貴重なご意見をいただき、誠にありがとうございました。
以下に、アンケート結果の一部をご報告いたします。

ご回答者様の属性等

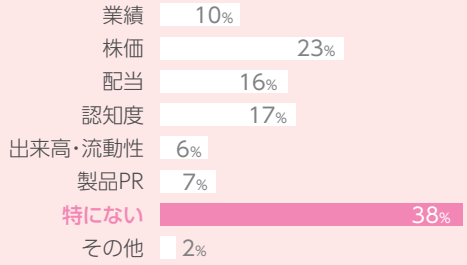


Q4 当社株式の購入理由は何ですか? (複数回答可)

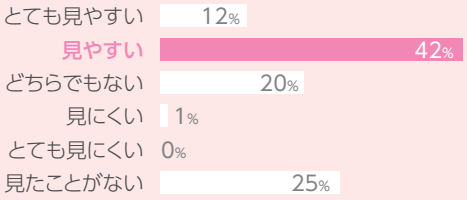


昨年に比べ「安定性・業界トップシェア」が5ポイント、「財務内容」が4ポイント、「製品開発力・技術力の高さ」が1ポイント上昇しました。皆様のご期待に沿えるよう、今後とも努力してまいります。

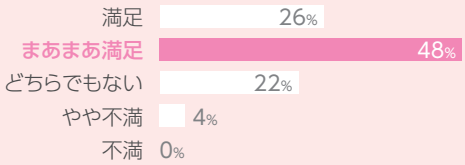
Q5 当社に対する不満はありますか？（複数回答可）

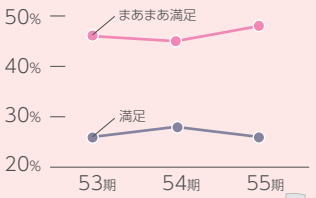


Q6 当社ホームページ、IRサイトについてご感想はいかがですか？



Q7 当社のIR活動についての評価を教えてください





昨年に比べ「まあまあ満足」が3ポイント増加し、「満足」との合計も1ポイント上昇しました。「やや不満」の皆様にどうしたら満足していただけるかをよく検討し、より一層IR活動の向上に取り組んでまいります。

役員（2019年9月30日現在）

代表取締役社長	洞下　英人
常務取締役	洞下　正人
常務取締役	八谷　　剛
社外取締役（常勤監査等委員）	松岡　省一
社外取締役（常勤監査等委員）	岩城　龍夫
社外取締役（監査等委員）	佐藤　　靖

株式の状況（2019年9月30日現在）

発行可能株式総数	34,000,000 株	株主総数	2,566 名
発行済株式の総数	8,745,408 株	単元株主数	1,722 名

大株主（2019年9月30日現在）

株主名	持株数（千株）	持株比率（%）
洞下　英人	1,159	14.17
東京中小企業投資育成株式会社	720	8.81
有限会社サンワールド	680	8.31
日本マスタートラスト信託銀行株式会社（信託口）	383	4.69
サンコーテクノ社員持株会	333	4.07
新井　栄	262	3.20
洞下　照夫	215	2.62
佐藤　静男	191	2.34
株式会社みずほ銀行	178	2.18
MSIP CLIENT SECURITIES	166	2.03

（注）1. 千株未満は切り捨てて表示しております。
2. 当社は自己株式（569 千株）を保有しておりますが、上記大株主から除外しております。

IR 情報はこちらをご覧ください

サンコーテクノ　検索

⇒ トップ画面 ⇒ IR 情報

INFORMATION

株主メモ

上場証券取引所	東京証券取引所市場第二部
証券コード	3435
事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	事業年度末日の翌日から3ヵ月以内
基準日	3月31日
配当基準日	3月31日、9月30日（中間配当を行う場合）
1単元の株式数	100株
株主名簿管理人特別口座の口座管理機関	みずほ信託銀行株式会社
同事務取扱場所	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社　本店証券代行部
公告の方法	電子公告により当社ホームページ（http://www.sanko-techno.co.jp/）に掲載いたします。ただし、事故、その他やむを得ない事由によって電子公告をする事ができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。

会社概要

商号	サンコーテクノ株式会社
設立	1964年5月15日
資本金	768百万円
社員数	312名（連結584名）（2019年9月30日現在）
所在地	千葉県流山市南流山三丁目10番地16 TEL 04-7157-3535　FAX 04-7178-6661
取引銀行	みずほ銀行 りそな銀行 千葉銀行 三井住友銀行 京葉銀行
事業内容	建設資材（あと施工アンカー・ドリル・ファスナー等）、複合材、各種測定器の企画開発・製造・販売・施工及び輸出入
連結子会社	株式会社IKK SANKO FASTEM (THAILAND) LTD. SANKO FASTEM (VIETNAM) LTD. 三幸商事顧問股份有限公司 株式会社スイコー アイエスエム・インタナショナル株式会社 浦和電研株式会社 成光産業株式会社 成光パック株式会社
非連結子会社	株式会社イーオプティマイズ
持分法適用関連会社	株式会社サンオー

証券代行お問合せ先

	証券会社等に口座をお持ちの場合	証券会社等に口座をお持ちでない場合（特別口座の場合）
郵便物送付先	お取引の証券会社等になります。	〒168-8507　東京都杉並区和泉2-8-4 みずほ信託銀行　証券代行部
電話お問合せ先		フリーダイヤル　0120-288-324（土・日・祝日を除く 9:00～17:00）
各種手続お取扱店（住所変更、株主配当金受取り方法の変更等）		みずほ証券：本店および全国各支店、プラネットブース（みずほ銀行内の店舗）でもお取扱いたします。 みずほ信託銀行：本店および全国各支店※ ※トラストラウンジではお取扱できませんのでご了承ください。
未払配当金のお支払	みずほ信託銀行およびみずほ銀行の本店および全国各支店（みずほ証券では取次のみとなります）	
ご注意	支払明細発行については、右の「特別口座の場合」の郵便物送付先・電話お問合せ先・各種手続お取扱店をご利用ください。	特別口座では、単元未満株式の買取以外の株式売買はできません。 証券会社等に口座を開設し、株式の振替手続を行っていただく必要があります。